

「ベテスダの池での恵み」

ヨハネ5:1～14 p185

主イエスの公生涯はおおよそ3年半である。その歩みは、30歳でバプテスマのヨハネから洗礼、40日40夜の断食と試みに勝利され、最初の過越の祭後、エルサレムに滞在された。サムリヤを経てのガリラヤ伝道の後、今回、2度目の過越の祭である。主イエスは次の過越の祭の直前に、十字架に架けられることを知っておられた。残された月日は一年である。

主イエスは2度目のこの過越の祭に、少数の弟子だけを伴われたようで、主のお供をし、後日、その状況を記しているのは、弟子のヨハネだけである。

さて主イエスは、エルサレムに入っすぐのベテスダの池にいた病気の男に、なぜか、目をとめられた。救い主イエスは一目見ただけで、「すでに長い間そうしていることを知る」ことができる神であり、主イエスの方から「良くなりたいか？」と尋ねて下さる方である。

ベテスダとは「憐れみの家」という意味であるが、名ばかりである。それは他に癒される方法がなく苦しんでいる病人に、38年間もの間憐れみを与えられなかったからである。水が動く間に池に入れない無力な者は、癒されない。この池に現される恵みは、元気な病人にしか与えられない限定的な恵みである。神の恵みは、立派な神の約束を行う者にしか与えられないのだろうか。これは行いが無い者は、神に受け入れられないという旧約の律法と同じである。

しかし、主イエスの救いは一方的な恵みである。絶望の中にある無力な人を生かすことができる。悩める彼は、直ぐに信仰にならなかったが、主イエスの恵みが彼を癒したのである。

[聖書の学び]

ベテスダの池——ヘロデ大王により設置された人工の池で、池の周りに屋根付きの廊下があり、病人が集まっていた。

I、絶望している人 (ヨハネ5:1～7)

1、ベテスダの池には伝説（聖書最後の、注—p45、五3参照）に期待し、多くの病人が回廊にいたが、その中で、主イエスが目を止められたのは、どのような人でしょうか。（ヨハネ5:5）

①ベテスダの池の何を信じて、そこに何年いたのでしょうか。

②ベテスダの池にいる彼の本来の目的は、何だったのでしょうか。（ヨハネ5:6）

2、水に直ぐに入れない彼にとって、良くなれない理由は力の無いベテスダの池でも、天使が来てくれないというでもなかった。この人の心はどうなっていたでしょうか。（ヨハネ5:7）

不満

他人との比較

ねたみ



人の愛に対する絶望とあきらめ

3、主イエスが救い主であることも知らず、求めてもいない。恨みがましく卑屈で、全く良いところのないこの人を、主イエスがあえて選ばれた、その理由を考えてみましょう。

・ 憐れみ ・ 同情 ・ 何を教えようとされたのか？

Ⅱ、一方的な主イエスの恵み (ヨハネ5:8～9)

1、心が不満と恨みで一杯の、自分でどうすることもできない病人に、主イエスはどのように言われましたか。(ヨハネ5:8)

2、この病人はどうなりましたか。(ヨハネ5:9)

3、この病人にとって、主イエスがして下さったことは、自分が何かした結果の報酬でしょうか？それとも一方的な恵みでしょうか？ (ローマ4:5)

Ⅲ、罪を赦して下さる主イエス (ヨハネ5:14～15)

1、主イエスは、癒された感謝の献げ物をするために神殿にいた、あの病人を見つけて、何と言われましたか。(ヨハネ5:14)

2、彼の病気の本当の原因は何だったのでしょうか。

3、主イエスに病気を治して頂いた人は、この後どうしましたか。(ヨハネ5:15)

4、ヨハネ5:36を読みましょう。彼は主イエスを敵視するユダヤ人(パリサイ人)たちの前で、主イエスの側に立って、主イエスこそ救い主、神の御子であるという証人となったのです。

*** ディスカッション** (心を開いて話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。